

平成 27 年度海外臨床薬学研修報告書

これからの日本の薬剤師に必要なこと

研修期間：平成 27 年 7 月 15 日～7 月 27 日

研修先：サンフォード大学薬学部

薬学部薬学科 6 年

100973349

西尾 洋平

私がこの海外研修に行くことを決めたのは、大学の講義やサンフォード大学からの留学生と関わるなかで、アメリカと日本の薬剤師の違いについて聞いており、どのような違いがあるか実際に見てみたいと思ったためと、実習の中で薬剤師はもっとできることがあるのではないかと感じていたためである。

私はこの海外臨床研修を通して日本とアメリカにおける薬剤師の職域の差や自分と海外の薬学生との差を感じた。日本とアメリカにおける薬剤師の職域の差はアメリカの薬局に見学に行ったときに最も感じた。アメリカの薬局ではOTC販売や調剤、服薬指導だけでなく、ワクチン接種や抗精神病薬の持続性注射剤を投与することができる。私は藤田保健衛生大学病院の精神科外来で8ヶ月間のアドバンスト研修を行っていた。研修では抗精神病薬の持続性注射剤について有効性・安全性モニタリング、スケジュール管理、用量や切り替えの提案、注射剤についての患者への具体的な説明を行っていた。しかし、投与については看護師が行っている。LAIは必ず筋注する必要がある、投与した部位をもんではいけないなどLAIの製剤的特徴を理解していなければ実施できないことがある。製剤的特徴については看護師よりも薬剤師の方がより理解しているため、LAI投与は安全に行えるのではないかと感じていた。アメリカでは実際に薬剤師がLAIを投与していることを知り、日本においても薬剤師が投与できるようにすべきであるとより思うようになった。また、薬局内においてある商品にも日本との違いがあった。糖尿病の患者向けの商品が多く置かれており、糖尿病の末梢神経障害で歩行が不自由な人のための靴などがおいてあった。薬局以外にもクリニックへ訪問した。日本でイメージするクリニックとは違い、2階建ての大きな建物で薬剤師が常駐している。クリニックでは医師の診察、検査を受け、最後に薬剤師が指導するという流れになっており、薬剤師が患者と接する機会が必ずある。日本ではクリニックに薬剤師がいることは少ない。アメリカでは薬剤師の指導が必ず患者にとって必要であるという認識が医療従事者と患者双方にあるのだと思った。

自分と海外の薬学生の差は、日々講義をうけている中で感じた。今回は日本以外に韓国とエジプトの薬学生とともに研修を行った。韓国とエジプトの学生は英語が非常に堪能で講義について深く理解していた。韓国の学生は全員TOIECで高得点をとっており、エジプトは大学の講義が英語であるということを知り、日本とは大きく違っていると感じた。また、エジプトの学生は心電図を読み取る力もあり、日本の薬学生が苦手としていることに対してもしっかりと理解しているのだと思った。最も差を感じたのは講義に対する積極性である。日本の大学の講義では、講義中にあまり学生から質問が出ることはなく、先生から質問はあるかと聞かれてもあまり質問していない印象がある。薬学的知識に関しては大きな差は感じられなかったが、英語力と積極性について大きな差を感じた。私はこれからの薬剤師は日本国内だけでなく今後はグローバルな視点を持つていくことが必要だと思った。

また、アメリカと日本では薬学生の教育制度にも違いがある。アメリカでは薬学部へ入る前にプレファーマシーといい、2年間生物、物理、化学、数学などの一般的な科目の勉強を

する。その後、薬学部で4年間学ぶという制度である。アメリカの薬学部ではファカルティと言われる臨床教員が存在し、薬学部の教員の多くがファカルティである。日本では薬学部は6年制であり、教員は基礎研究の分野の教員が多く、アメリカと比較すると臨床教員が少ない。このようにアメリカの薬学部は非常に臨床を重視していると感じた。

日本はアメリカよりも薬剤師の職域が狭い。しかし、アメリカも最初から今のような職域の広さがあったわけではない。アメリカの薬剤師が積極的に医療にかかわってきたため、今のような職域の広さにつながっている。そのために日本でもこれから薬剤師の職域を広げていくために積極性を向上させるべきである。韓国、エジプトの学生を見ていると授業で分からなかったところや疑問に感じた点をすぐに教員に質問しており、理解できるまで徹底的に質問していた。そして、授業では積極的に発言をしており、自分から学ぶ姿勢が見られた。このような点は日本の学生でかけていると思った。海外の学生の積極性を見習い、積極的に授業にとりくみ、また現場においても薬剤師が薬に関しては積極的に仕事を行っていくことで薬剤師は薬についての深い知識ややれることがたくさんあるということを他の職種に感じてもらう必要があると思った。また、薬剤師は何ができるか、薬剤師がすべきことは何か、患者は薬剤師に何を求めているかなど常に考えながら業務や実習、大学での勉強を行っていくべきである。これを薬剤師、薬学生のひとりひとりが考えることで薬剤師の職域を広げることや地位向上につながると感じた。

今回の海外臨床研修では、アメリカと日本の薬剤師の違いや薬学部の制度の違いだけでなく、韓国とエジプトの学生と関わることで日本と韓国、エジプトの違いについても知ることができた。また自分と海外の学生の差を感じ、今後はグローバルな視点を持つとうきょうきかけとなった。